

■（１９９）被災地で示された民意と下せなかった評価

岩手県大槌町で８月２８日に町長が交代する。東日本大震災で当時の町長をはじめ人口の１割が犠牲になった。復興に向けて駆け回った町長だったが、９日の選挙で示された有権者の意思は「ノー」だった。復興の加速化を訴えた新人候補に予想外の大差で敗れた。

町民の４人に１人がまだ仮設住宅に暮らす。被災した中心部はようやく土盛りが本格化した段階だ。生活の将来像を描けない町民のうっぷんが爆発したとも言える。震災から間もなく４年半。普段は静かな被災者も我慢の限界を迎えているのかもしれない。一方、県知事選は２０日に無投票で現職が３選された。当初は県選出の参院議員が出馬表明し、自民党の支援を受けて対立軸を作るはずだった。しかし、安保法案など国政の問題が争点に持ち込まれそうだと警戒して８月に入って出馬断念した。有権者にしてみれば、復興への取り組みなど知事への評価を下す絶好の機会が突然、消えてしまったみたいなものだ。

被災地では今秋、震災で延期された統一地方選が続く。震災半年の前回とは違い、今回は復興だけでなく、その先の自分たちの未来を考える選挙になる。私らも凝視したい。（山）